第 2016-08 号

恵みと真理のニュース

2016 年 2 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　いつも感謝する心で礼拝と伝道と奉仕に最善を尽くすと神様が天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださるのを体験しました

私は仏教を信じる家庭で生まれ家のあちこちに見守りか貼っておいて祭祀をするのを見ながら育ちました。母をついて寺に行ったら寺にあるものが恐くなり心から“これからお寺には行かない。”と思いました。その代り友達をついて教会に言ったら心が平安になり祈りと賛美するのが楽しかったです。中学生の時には学校の理事長をはじめ他の先生がクリスチャンなのでよく学校でキリスト教の行事が開かれました。休みになると大学の先輩達が来て宣教活動で賛美歌と振り付けを教えてくださって私達と楽しく遊びました。神様の御言葉も聞いて聖劇もしながら神様の存在も認識するようになりました。問題があったら神様に祈りました。しかし、高校に進学してから入試を準備をして忙しい生活をしながら神様を忘れていきました。大学を卒業をして社会生活をしながら少しでも難しいことがあっても不平して、良い事があると私がやったと高慢になりました。

結婚して子供を妊娠した時に姉が私の家の近くに引越しして恵と真理教会を導いてくれました。大きい教会であり聖徒も多くて驚きました。礼拝が始まって賛美するときに理由もなく涙が出て祈りをする時には言葉では表現できない良い感情で心がきれいになる感じでした。良い気持ちで礼拝を終えて家に戻ってきてしばらく姉と区域長をついて教会によく通いました。ところが信仰がよく育つときにサタンが攻撃して主日になると婚家や友達から連絡が来て約束が出来ました。そうしながら教会に行く回数も減りました。様々な言い訳をして教会を休んでしまってついに教会に行くのも面倒くさくなりました。さらに教会に行くと誘う区域長も避けました。このような私を神様がどれほど哀れに思ったでしょう。急に旦那がする事業が落ち目になり急に謝金が増えました。毎日のように債権者達の電話で苦しかったです。人は愚かな者です。自分の知恵と力ではどうしても出来ないことがあるときに主を求めます。私は再び神様を仰ぎました。“神様、助けてください。債権者達が来ないように助けてください。苦しいです。”家を売り謝金をどのくらい返してアンヤンにあるところに行きました。

不信者である姑と旦那の迫害があるからかろうじて区域礼拝だけ参席しました。すぐ経済的な回復より家族の救いがもっと急ぎだったので家庭福音化のため祈りました。伝道すると旦那は“教会は嫌だ。仏教は自分の宗教だよ。お寺に続けていくよ。”と言い、姑は偶像崇拝に熱心でした。生活はもっと苦しくなりました。

そうすればするほど神様をもっと仰ぎました。旦那と姑が私と共に神様を信じるように祈りました。家庭福音化になるため毎日祈りました。そのように切にいのったら旦那が職場を移動するたびに取引先の人々を会うたびにクリスチャンを会えるように神様が摂理してくださいました。その方々と接してから旦那の心が開かれある日曜日に“私も一緒に教会に行ってみようかな”と信じられないことを言いました。ハレルヤ！感謝します。その日の喜びと感激を言葉でどう表現できますか。姑も神様の恵みと摂理で祭祀をしなくなりました。

婚家で住んだのも10年になったある日、子供をつれてカンアク山で行きました。山の下に新しいアーパトの工事をする姿を見ました。　そのアーパトを見ながら空気も良いし休みの日には子供をつれて山にも行ったらいいな。私もあのアーパトで住んだらいいな。と思いました。私の心と考えを知っておられる神様はその道を開いてくださいました。市役所に勤務している夫の兄を通して新築しているアーパトがあるから申し込むように連絡が来ました。

驚くことですが私が思っていたそのアーパトでした。私の家族と子供3人がいたので優遇で恵みを受けて自分か好きな1004号に当籤されました。神様の恵と摂理によって当籤になったことで献金を捧げて感謝祈りをしました。アーパトが全部建てられて入居しました。

どころが毎日感謝しながら生きるべきなのに生活が安定され心が楽になると信仰生活が疎かになりました。遅く礼拝に行ったり居眠りしたり、たまには体が痛いといて礼拝もやすんでしまいました。すると神様は長男を通して私を悟らせてくださいました。子供が運動場のシーソーであそんで乳歯二つの前歯が抜けてしまう事故にあいました。

疎かに信仰生活をしては行けないんだ。主の事に一生懸命しなければならないんだ。以前は主の事に熱心にしなくてただ神様に祈りだけして悔い改めませんでした。自分事を反省して真の悔い改めました。教区長と区域長と聖徒達も祈ってくださって神様の恵みで息子の前歯が歯茎によく貼って治りました。

以後、旦那も男性区域礼拝に参席するほど信仰が深くなりました。男性区域長の夫婦の紹介で聖歌隊で奉仕するようになりました。始めは勧められて私の考えでは子供3人がまだ幼いから無理だと思って断りました。人間的な考えと判断で決定するのではなかったですがその時には悟らなかったです。もっと祈って決心するように区域長が勧めました。それで祈りをすると今まで生きて来たのが神様の恵みと愛なのに主のため献身したこともなく、神様の愛するから教会で献身する機会を与えてくださったと悟りました。

聖歌隊で奉仕してみたら子供達が長い間教会にいながらも楽しく礼拝して遊ぶようにしてくださり、子供達も教会学校の聖歌隊で賛美しながら信仰が成長するようにしました。私の夫婦は聖歌隊で奉仕しながら執事の職分を受けました。そして旦那は職場で能力を認定され社長になりました。真で感謝します。神様の恵みです。

私は体験を通して救われた聖徒はどんな事があっても主のことをおろそかにしてはいけないと思い、いつも感謝する心で礼拝と伝道と奉仕に最善を尽くしたら神様の心霊な福を与えて下さり 天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださるのを悟りました。神様は私達の考えと心の全て愛に感謝します。私の夫婦はこれから相変わらず主だけ愛し忠誠するように決心して全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］　土の器の比喩に掲示された神様の摂理と恵みと主権

”...われわれは粘土であって、あなたは陶器師です。われわれはみな、み手のわざです。”（イザヤ６４：８）

聖書には貴重な真理を説明するため様々な比喩と象徴を使っています。その中で、人を土の器に比喩したお言葉が多く記録されています。土の器の製造に表れた’神様の摂理’と土の器に臨む’神様の恵み’そして土の器に対する’神様の主権’に関して順に調べてみましょう。

第一、土の器を作る過程を通じて人間を選択なさい、救い、変化させてくださる神様の摂理に関して調べてみましょう。

本文に神様を陶器師に、人を粘土に比喩しています。陶器師は土の器を作るため野山に行き粘土を探します。それから発見するとその粘土を汲んで工場に運搬します。このように神様が私達を神様の国の土器に作るためには粘土のような私達を探して選んでくださらなければなりません。そして、粘土を工場に運んだが粘土の中には不純物が残っているように神様に呼ばれて初めに教会に出た人はまるで不純物で満ちている粘土のようであります。粘土は自ら清潔にする能力がありません。陶器師はこのような粘土の中で不純物を除去する作業をします。そのように神様は聖霊とお言葉で私達の醜悪な罪を悟らせて悔い改めるようにしてくださりイエス様の血潮で清潔にさせてくださいます。そうして生まれ変わるようにしてくださいます。その後に陶器師は粘土が清くはなったが、まだ塊が多いのでこれを破る作業をします。これは生まれ変わった聖徒が聖徒のように生きるよう変化を受ける過程です。内なる人に合う生活をするよう神様が内の古き人の傲慢な性質と偽りの性質を破り、世俗に従う性質を破られます。このようにしてふかふかとなった粘土を轆轤の上に置いて回しながら様々な模様の器を作り出します。神様は破りつづき使うことに適当なより大きい器に、より有用な器に作られます。

第二、土の器に臨む神様の恵み関して調べてみましょう。仮に、人々が叶えたことが偉大だとしても土の器のような人間存在が変わることはありません。依然として罪の下にあり死の支配の下にあります。いかに学識と名声と知識と物質と美しい肉親を持った者だとしても決して死を免れることのできない弱々しい土の器にすぎません。ここに幸福な消息があります。イエス様が土の器の中の宝物になってくださると言われました。私達は外部的には土の器のようでありますが、イエスキリストを主として仕えたので私達の中には宝物が入っているのです。この宝物を土の器に持った私達は常に勝利の人生を送ることができます。四方に患難を受けても窮しません。苦しいことに遭ってもイエスキリストが聖霊の能力で驚くべきな慰めと望みを与えてくださるので挫折しません。逼迫を受けても捨てられなく却って神様に認定され賞を受けます。倒されても滅びません。歴史的に教会や聖徒を倒そうとした個人と国は滅びましたが、キリスト教会は滅びなく再び火のように起きて旺盛になっています。

第三、土の器に対する神様の主権に関して調べてみましょう。ローマ書 9 章 21 節に”陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか。”と記録されています。土の器は陶器師にけちをつけて質問する権限がありません。土の器は陶器師に感謝すべきです。神様は絶対主権者であります。私達が神様に望みを申し上げることはできますが神様を詰問してはなりません。物事に感謝しながら現在に与えられた姿通りにその使命に充実することで神様に光栄を捧げる生活をするべきです。そうすると遺業の賞を同じく受けます。

皆さんは神様の選択を受けて救われた聖徒のように生きるため、より破られた人になり宝物であるイエス様を仕えた人のように日々に勝利の生活をしながら私達をお作りなさった絶対主権者である神様に常に感謝しながら生きてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

調和しなければならない二つの欲望

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は二つの相反した欲望を持っています。 持とうと思う欲望と与えようと思う欲望です。持とうとする欲望より与えようと思う欲望の大きい人は利他心が強い人です。 一方で持とうと思う欲望の大きい人は利己心が強い人です。利他心の強い人々が多ければ概してその社会が明るくて郎らかな雰囲気になります。 一方に利己心の強い人々が多ければ概して重くて不便な雰囲気になります。 二つの欲望の中にどの一つがとても大きくて強ければ弊端をもたらすことができます。 望ましい状態は持とうと思う欲望と与えようと思う欲望の大きいのが調和を成す時です。 聖書には “求めなさい”と言うお言葉と “与え”と言うお言葉が皆が強調されています。 今日は “持とうと思う欲望と与えようと思う欲望”に関してよく見ます。

私たちはたくさん持とうと思う欲望を持って努力して神様に切に求めなければなりません。
神様がこんな態度を励みします。
天地創造に関する聖書の記録を見れば神様は人々が所有欲求を満たすことができるように万物を作りました。 そして神様の形と姿のどおり作った人を連れて来てエデンの園に残して、それを管理させました。 神様がアブラハムを選択して呼んで命ずるのを “時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。”（創世記，12:1,2）としました。 アブラハムは多くの所有物を持つために努力したし神様が福をくださいました。 アブラハムに家畜と銀と金が豊かであったと聖書に記録されています。 イサクとヤゴブそしてヨセフも同じでした。
神様は彼の子供が神様を向けて大きく期待して多くのことを要求するのを願います。 皆さんは多くのことを持つのを願ってこのために神様に切に求めてください。 詩編 81 編に記録されるのを “わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう。しかしわが民はわたしの声に聞き従わず、イスラエルはわたしを好まなかった。それゆえ、わたしは彼らをそのかたくなな心にまかせ、その思いのままに行くにまかせた。”（詩篇，81:10～12）としました。 使徒パウロは自足する秘訣を学んだと言いました。 パウロの言う自足は自慢することとは違うのです。 充分なことをわかる意味です。 貪欲を持つので不満と不平を言う態度は聖徒に適当ではないです。 ちょっとしたことを持ってからも感謝することができることがパウロが悟った自足の秘訣です。
しかし聖徒は自足する土台の上でもっと発展して向上して進もうとする意欲を持たなければなりません。 いつも目標を上向き調整して自分の弱いと不足を認識して神様の助けを切に求めなければなりません。

大きく期待して切に望む心になれば切実に祈って叫んで祈るようになります。 “「地を造られた主、それを形造って堅く立たせられた主、その名を主と名のっておられる者がこう仰せられる、 わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。”（エレミヤ書，33:2,3）としました。 エリシャ予言者の時代にあった事です。 エリシャ予言者の生徒の妻の中ある女人がエリシャに叫んで自分の困窮した事情を訴えました。（列王紀下，4:1～7）“預言者のともがらの、ひとりの妻がエリシャに呼ばわって言った、「あなたのしもべであるわたしの夫が死にました。ごぞんじのように、あなたのしもべは主を恐れる者でありましたが、今、債主がきて、わたしのふたりの子供を取って奴隷にしようとしているのです」。エリシャは彼女に言った、「あなたのために何をしましょうか。あなたの家にどんな物があるか、言いなさい」。彼女は言った、「一びんの油のほかは、はしための家に何もありません」。彼は言った、「ほかへ行って、隣の人々から器を借りなさい。あいた器を借りなさい。少しばかりではいけません。そして内にはいって、あなたの子供たちと一緒に戸の内に閉じこもり、そのすべての器に油をついで、いっぱいになったとき、一つずつそれを取りのけておきなさい」。 彼女は彼を離れて去り、子供たちと一緒に戸の内に閉じこもり、子供たちの持って来る器に油をついだ。油が満ちたとき、彼女は子供に「もっと器を持ってきなさい」と言ったが、子供が「器はもうありません」と言ったので、油はとまった。
そこで彼女は神の人のところにきて告げたので、彼は言った、「行って、その油を売って負債を払いなさい。あなたと、あなたの子供たちはその残りで暮すことができます」。” としました。 もし女人がエリシャ予言者の言葉の通りしなかったらこんな奇蹟を体験することができなかったはずです。 しかし女人はもう言わないで神様の人である予言者がさせたとおり徹底的に従順しました。 女人は実に口を広く開いたし神様が満たしてくださったのです。

使徒パウロは神様を示して “どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、”（エペソ人への手紙，3 :20)と言いました。
神様は権能が無限で限りなく富裕です。 ローマ人への手紙 8 章 32 節に記録されるのを “ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。”と しました。 神様が私たちをあがないしようとイエスキリストをくださいました。 そこに比べればその何もちょっとしたことに過ぎないです。 “わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう（ 詩篇，81：１０）” としました。 イスラエル子孫が子羊の血であがないを受けてエジプトから解放されたように、イエスキリストを信じる私たちはイエス様の宝血からあがないを受けました。 神様はあがないを受けた民にすべての良いことを豊富にくださるのを喜びます。 神様は真実で約束したお言葉を必ずおこないます。 神様は全能で成す事ができないことが一つもないです。 皆さんは神様の手を通じて多いのを得て所有しようとする欲望を持って努力して求めてください。 口を広く開く事は私たちがすべきことで満たすことは神様がなさる仕事です。 私たちすべきことをつくせば神様がなさる仕事は神様がなさえます。

私たちは神様にたくさん差し上げて他人の慈しんでくれるのを力をつくさなければなりません。
神様がこんな態度を励みします。
イエスキリストがおっしゃるのを “与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから」”（ルカによる福音書，6:38）としました。 イエス様がガリり海の向こう側に行ったら大きい群れがイエス様を付いて来ました。 イエスキリストが群れを可愛想に思って病んだ者を直しました。 夕方になると弟子がイエス様に言うのをこちらは荒野で日がもう暮れたから群れを散らして送って村に行って食べ物を買わせてくれと言いました。 ところで弟子は思いがけないお言葉をイエス様からきくようになりました。“あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。イエスは言われた、「それをここに持ってきなさい」。そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。 みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった 。” パンと魚をイエス様に差し上げた子供とアンドレは “与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから」。”と言うお言葉を実際に体験するようになりました。

新約聖書のコリント人への第二の手紙で私たちは差し上げて分けてあたえる事に力をつくしたコリント教会によって貴重な真理のお言葉を受けるようになりました。 “わたしの考えはこうである。少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、おしいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。”（コリント人への第二の手紙，9 :6～8). 神様に差し上げるすべてのものは神様の畑に植えることとも同じです。だから私たちは楽しい心で差し上げなければなりません。 神様は楽しい心から差し上げる聖徒を愛します。 そしてすべての事にいつもすべてのものが豊かですべての善良な仕事をあふれさせるようにします。
持とうと思う欲望と与えようと思う欲望は生の活力素です。 ただ私たちがこんな欲望が調和するように調整しなければなりません。 そうするために私たちは持とうとする欲望と与えようとする欲望が神様のお言葉と聖霊様の治めることと引導を受けさせなければなりません。
信仰生活の深さと発展は神様から受けるのを願う心と神様に差し上げるのを願う心の熱さと切実なことがどうかに関わっています。

聖徒の皆さんは神様を向けて口を広く開いて求めてください。 そして積極的に差し上げるのを力をつくしてください。 そしてすべての事にいつもすべてのものが豊かですべての善良な仕事があふれてなさるように願いします。